



2025年、 トーキョーの会社が消える。

2025年問題が迫っている。それは、団塊世代たちが75歳以上を迎え、超高齢化社会の入り口に立つ瞬間だ。
こんな予測もある。日本企業の1/3が後継者不在となり、廃業リスクが急増するという。継ぎたい。けれど、後継ぎがない。未来に残るべき会社が、技術までもが失われてしまう。
トーキョーが、「事業承継」の壁にぶつかる。

ただ誰かに引き継げばいい。答えは、そんな単純じゃない。経営の見直し。株式などの相続。後継者の育成。そして、目に見えない資産もリレーできるか。長年積み重ねてきたノウハウを守るために。企業文化を残しながら、働く人が前を向けるために。会社の、人の将来を思えば思うほど、課題は広がっていく。

今こそ、金融を超えたチカラが試されている。
きらぼしグループは、その総合力を活かしきる。
資産マネジメント、経営コンサルティング、人材ネットワーク……。金融も金融以外も、あらゆる知恵をふり絞りながら、複雑化する事業承継に解決策を導きだしていく。

きらぼしグループのある担当者は言った。
過去のデータで判断しない。その会社の、未来を見て動きたい。
2025年まで、あとわずか。今日も、現場は走っている。

TOKYOに、つくそう。



 東京きらぼしフィナンシャルグループ

 きらぼし銀行

 U-i Bank